

学級・教科を通して、生徒間・教師間で「学び合う」新聞活用 ～実践から考えようNIEへの取組～

西都市立穂北中学校
教諭 薬師寺 厚 征

I はじめに

本校は、生徒数111名の西都市で2番目に大きな中学校である。生徒は明るく活発で、学習や、諸活動に素直に取り組んでいる。地域の伝統文化継承として「下水流臼太鼓踊」、「三世代ものづくり教室」、「独り暮らしの高齢者へ年賀状を送る」等の活動を通して地域と密接に結び付いた学校である。新聞活動については、学校評価項目に位置付け、教育的課題の1つとして実践に取り組んでいる。

今年度NIE独自認定校として指定を受け、「みんなでまずは実践」を基本スタンスとして、教師間のNIEへの理解を高めながら、新聞活用に関して地区の宮崎日日新聞販売所から意見をいただきながら取り組んできた。「新聞活用方法を教師間で意見を交えながら進めて来られたこと」「生徒の身近に新聞があること」がこの1年の大きな成果であるとともに、「生徒がどのように新聞に携わるかは大人(教師・保護者)の責任」という次年度に向けた課題が明確になったことも財産である。



下水流臼太鼓踊

今年度の活動を原点として、みんながNIE活動に携わる実践にしていくために改善しながら取り組んでいきたいと考えている。

II 本校の現状

- 1 学校評価の項目「本や新聞を読む習慣が身についているか」の評価が悪い。
4段階評価(平均値) 【生徒：2, 4 保護者：2, 2 教員：2, 8】
- 2 家庭(地区)での新聞購読状況について
宮崎日日新聞西都北部販売所からの情報 全体的に購読件数は多くはなく、減少傾向がある。

III 実践について

- 1 年度当初の活動案に対して ○：成果 ●：課題(反省)

番号	活動内容	取組状況
(1)	各教科において新聞を活用した教材・授業実践マニュアルを作成し、西都・児湯地区の各学校に配付・普及に取り組み、新聞活用を推進する中核校になる。	○各教科で実践し、校内テストでも新聞記事を活用した問題の出題にも取り組むことができた。 ●他校への配布・普及まで至らなかった。
(2)	参観日に親子で新聞記事について考える活動の時間を設定し社会事象に関心を持たせるとともに、家庭でも新聞記事を通してのコミュニケーションの充実を図る。	○参観日には実施できなかったが、新聞を家庭に持ち帰って記事を親子で考える活動を実施したことにより、親子間のコミュニケーションを図ることができた。
(3)	各学級で前週の新聞記事を、本校の研究で取り組んでいる「学び合い活動」を取り入れた学級新聞「HKT TIMES(ほきたタイムズ)～世の中で何が起きているか?～(仮称)」づくりとして作成活動に取り組みせ、毎週金曜日に学級で発表会を行う。代表作品を学習発表会や地域の行事(穂北祭り・穂北ものづくり体験活動など)で発表し、取組を学校・家庭・地域に発信する。	○朝の会・帰りの会で生徒が選んだ新聞記事について発表することができた。 ○「HAPPY NEWS」新聞づくりをグループでの「学び合い活動」で実施したことにより、生徒同士の望ましい人間関係づくりにも活かすことができた。 ○「HKT TIMES」を作成し、地区の夏祭り(穂北まつり)で展示し、地域等への発信をすることができた。
(4)	新聞活用や新聞づくりなどのNIEでの学びを小中連携の新たな取り組みとして、中学生が小学校高学年に指導を行い、小学校にもNIEを普及させていく。	●小学校への指導や小中連携まで至らなかった。

2 具体的な実践について

(1) 各教科における実践（社会の指導案について最後に添付。）

各教科において、新聞を活用した授業実践や校内テスト問題での活用に取り組んだ。どのように活用できるか教科間での話し合いをすることで、教科の枠を超えて話をする場面が生まれ、OJTとして、効果を得ることができた。（下記は、国語・英語・数学の指導案及び理科の校内テスト問題）

NIE 国語科指導案		
平成28年12月14日	学級 1年 1組	国語 授業者 渡邊 俊介
1 単元名 表現を伝える		
2 本時の目標 (ねらい及び評価の観点)		
① 新聞の記事から事実と記者の考えを区別する。		
3 授業の流れ		
学習活動	教師の支援・留意点	形態
1 本時の流れを確認する【見通し】	○ ADの観点から見通しを持たせる	一斉
2 本時の課題		
新聞の記事を書くこと		
3 ことも新聞の1面記事を読み、事実が書かれている箇所を見つける。	○ ペアで確認しながら事実の箇所と線を引きかき取る。	ペア
4 記事の中の事実である箇所を発表する。	○ 他の人の意見を参考にしながら事実である箇所を確認させる。	個人
5 事実を元に自分の意見を書く。	○ 話し合い、編集をさせる。 ○ 事実の箇所は残し、意見を書かせる	班
6 新聞記事を作る。	○ 完成した班からパソコンで入力させ、出来上がった新聞記事の発表を行う。	班
7 までの新聞記事を書く人によって記事の印象が変わることを伝える。	○ 記事を作った感想を書かせる。	個人
8 振り返り	○ 「振り返りカード」の記入	
4 板書計画		

NIE 英語科指導案		
平成28年10月28日	学級 2年 1組	英語 授業者 後藤 進
1 単元名 インタビュー記事を書くこと		
2 本時の目標 (ねらい及び評価の観点)		
① インタビューをしてオリジナル記事を作ることができる。		
② ペアで協力し、活動することができる。		
3 授業の流れ		
学習活動	教師の支援・留意点	形態
1 本時の流れを確認する【見通し】	○ ADの観点から見通しを持たせる	一斉
2 本時の課題		
インタビューをして、新聞記事を作ろう!		
3 ことも新聞の英語記事を読み、内容を理解する。	○ 英和辞典を使い、分からない単語の意味を調べながら新聞を読む。	ペア
4 自分の読んだ英語記事の内容を言葉にまとめる。	○ 2年生までに習った文法や単語を使い、わかりやすくまとめるように促す。	ペア
5 他のペアにインタビューをし、何についての記事なのかを聞く。	○ できるだけ英語でインタビューするように促す。	ペア
6 インタビューしたことをまとめ、オリジナルの記事を作る。	○ ペアで協力し、オリジナルの記事を作るように促す。	ペア
7 まとめ		
教室に提示し、それぞれの記事についてコメントを書く。	○ コメントを書く際の注意をしっかりと聞かせる。	個人
8 振り返り	○ 「振り返りカード」の記入	
4 板書計画		

数学科	
学習指導要領	指導上の留意点及び評価 (②)
1 本時の授業の流しを確認する【見通し】	○ ホワイトボードを活用し、本時の流れを整理し示す。
2 前時の振り返りをする。	○ 相似な立体の表面積の比、体積の比について確認する。
3 日ロ首飾会館が行われることを知り、ロシアについて興味を持つ。	○ 日ロ首飾会館が山口で行われることが決定した記事のっている新聞を提示し、ロシアについて興味を持たせ、本時で取り扱うロシアの民芸品について触れる。
4 本時で取り組む問題を知る。 高さ15cmと10cmの相似な2つの立体F, Gがあります。Fの表面積が144cm ² 、体積が108cm ³ のとき、Gの表面積と体積を、それぞれ求めなさい。	○ 本時で学習する内容を提示し、何を学ぶのか確認させる。 ○ 立体の表面積や体積の求め方を考え、求められるようになろう
5 本時の課題を設定する。	○ 学習内容から、本時の課題を生徒から引き出す。
6 表面積や体積の求め方を考え、解く。	○ 個人で考えさせる。 ○ 求め方が分からない生徒がいるときは、相似比と面積の

平成28年度 NIE理科



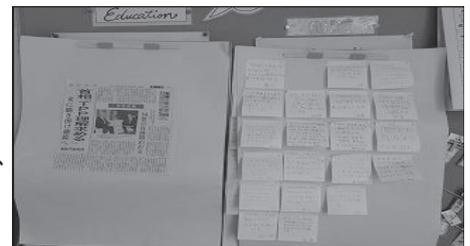
理科室に提示し、新聞記事を生徒にも配布した。
その資料から下記の問題を出題した。

第2学年第1回校内テスト問題(理科)

8. 【時事問題】理化学研究所の実験チームが初めて発見した元素は、元素の周期表に書き加えられる113番目の新元素を誕生させました。この新しい元素の名前に記号を書きなさい。

(2) 朝の会・帰りの会での実践

「生徒が新聞記事を選んで、その記事についてのコメントを朝の会で発表し、発表した記事やコメントを学級に掲示し、それについて他の生徒が帰りの会でコメントをする」実践に取り組んだ。このことにより、自分の担当する日には、新聞に目を通すことになり、友だちと記事を選ぶ姿も見られた。また、他の生徒が選んだ記事やコメントをもとに、見聞を広げることもつながった。3学期からは、家庭に新聞を持ち帰って「保護者とともに考える！」活動へステップアップを図っている。家庭や地域での新聞購読数が減少している現状や「家庭でも子どもと話すことが少ない」というアンケート調査結果もあり、家庭と協力した取組が本校の課題でもあり、その対策にも活用している。



【掲示した記事の例】

(3) 読書活動における実践

本校では、読書活動の時間を定期的に確保して実施している。今年度、「課題図書(同じ本を学級の生徒が全員読む)」「自由図書(自分が好きな本を図書室で借りたり、自分でもって来たりする)」に加え、「新聞記事を読む」活動に取り組んだ。

「新聞記事を読む」活動は、担当教諭が、新聞記事を選び、全学年に同じ記事を読ませ、それに対しての感想を書く活動である。新聞記事を時間をかけて読み、感想を書くことにより、記事をより深く読み込むことができるようになった。



【読書活動での実践例】

(4) 「HAPPY NEWS」新聞づくりの実践

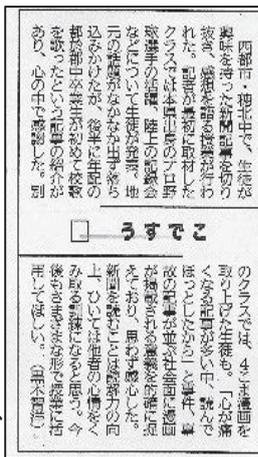
宮崎日日新聞西都北部販売所の方を通じ「HAPPY NEWS」があることを知り、本校の研究で取り組んでいる「望ましい人間関係づくり」を達成させる手立て(学び合い活動)として取り組むことにした。「新聞に親しむ」「新たな発見」「グループでの協働作業」をねらいとして、朝の会・帰りの会での実践の延長版とし位置づけた。各学級4名程度のグループをつくり、これまでの新聞記事や写真を見て「HA



【「HAPPY NEWS」の例】

PPY]な気持ちや「あ！なるほど」と新たな気づきを与えてくれる記事・写真を選び、その選んだ理由を「HAPPY NEWS」の台紙に記入する実践に取り組んだ。

記事を4名で探し、選択した記事を4名で検討したり、見出しやコメントを考えたりしたことから、より新聞に親しむ機会も増え、記事に対しての意見も深まり協働した活動になった。また、学級全体で発表会を行ったことからグループの意見が学級全体にも広がった。その後、廊下に掲示し他学年の内容も見ることができた。さらに、発表会の様子を取材していただき、新聞に掲載されたことにより、家庭や地域への発信もでき、他校への普及にもつながっている。



【NIE 授業のことを掲載した記事】



(5) 「HKT TIMES (ほきたタイムズ) ～世の中で何が起きているか?～」の実践

年度当初、学級新聞「HKT TIMES(ほきたタイムズ)～世の中で何が起きているか?～(仮称)」づくりとして作成活動に取り組ませることにしていたが、「HAPPY NEWS」の活動を実施したため、「HAPPY NEWS」の拡大版として、「HKT TIMES ～世の中で何が起きているか?～」を1学期末と夏季休業中のサマースクール時間を活用して作成に取り組んだ。学年ごとにテーマを設定(1年:リオ・オリンピック 2年:平和学習 3年:熊本地震)し、「学び合い」を取り入れて協働作業を行った。完成したものを、8月20日(土)に行われた地区の祭(穂北まつり)で展示をした。



【HKT TIMESとまつりの様子】

IV 成果と課題

(1) 成果

- ① 学級に常に新聞がある状況ができ、生徒が新聞をより身近に感じ、手にする機会・読む機会が増えた。
- ② 保護者とともに新聞記事を考える実践に取り組んだことにより、家庭(保護者)にも新聞に関わる機会ができ、それをもとに家庭でも生徒との会話が増えた。
- ③ 「HAPPY NEWS」新聞づくりや「HKT TIMES (ほきたタイムズ) ～世の中で何が起きているか?～」の実践で、「学び合い活動(グループ活動)」を中心に行ったことにより、生徒同士の望ましい人間関係づくりを構築することができた。
- ④ 新聞に自分たちの活動が掲載されることにより、生徒の自己肯定感が高まり、学校の活動を地域に発信することもできた。

(2) 課題

- ① 各教科において、授業の導入段階で新聞を活用することにより、さらに生徒に新聞をより身近なものに感じさせていく必要がある。
- ② 「HAPPY NEWS」「HKT TIMES」づくりを実践するための時間を計画的に確保する必要がある。
- ③ 保護者やPTA活動と連携し、保護者とともに新聞を活用する実践を構築していく必要がある。
- ④ 社会の状況の変化(活字離れ)を教師・保護者が認識し、言語活動の育成の観点からも新聞を中核に様々な活動を構築していく必要がある。

※掲載されている新聞記事や活動で使用した新聞は、すべて宮崎日日新聞を使用している。